

新たな息吹 SINCE2007



さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

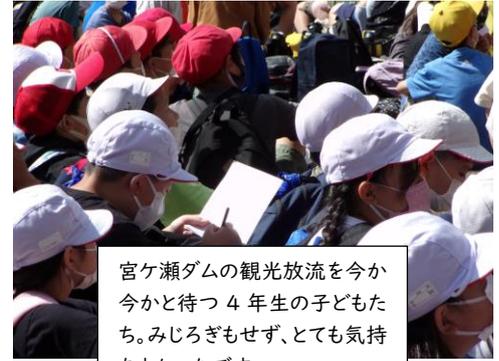
URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail y3sawano@edu.city.yokohama.jp

10月号

子どもの「感性」について思うこと ～実りの「秋」を迎えて～

学校長 鈴木 和枝

昨年度は、10月から分散登校が明け、一斉登校が始まりました。子どもたちの一斉に登校する姿に、感慨深い思いになったことを、27日の中休みに行われた「長縄～秋の陣～」の子どもたちの姿を見て、ふと思い出しました。この日はまだ残暑の名残を感じる日でもありましたが、中休みの長縄は全校で実施。養護教諭は、これまでの子どもたちの傾向から「中休み後に『具合が悪い』と訴えて保健室の来室者が多いのでは……。」と想定したものの、なんと蓋を開けたら来室者は0名。子どもはほんとうに正直です。長縄が得意、不得意、そうしたことに関わらず、心が満ち足りた時間、どの学級も仲間と共に楽しい時間を過ごしたことを、保健室来室者0名が証明したとも言えるエピソードでした。



宮ヶ瀬ダムの観光放流を今か今かと待つ4年生の子どもたち。みじろぎもせず、とても気持ちよかったです。

さて、長縄の他にも、9月にみんなで鑑賞し合い、学び合おうと実施したものに「自由研究展」がありました。上学年と下学年とで第二音楽室と家庭科室を使用して行ったのですが、「どうやって作ったのだろう。」「こんなことをよく思い付いたなあ。」と思う作品、「よくぞここまで。」と拍手をおくりたい気持ちになった作品と、時間を忘れて見入ってしまいました。実は、その中の一つに、「ホットケーキ大作戦」と名付けられたものがありました。「どういう作戦なのだろう？」と興味津々に開いてみると、びっくり。ホットケーキを焼くときに、ただ単に焼くのではなく、メレンゲやヨーグルト、マヨネーズを生地に混ぜ込み、焼いてみることでどんな変化があるかを実験してみたというのです。私は料理には少々興味があるのですが、そんな発想は全くないので、「よくこんなことをやってみようと思ったなあ。」とほんとうに驚きました。後日、「自分がホットケーキをつくってもどうしてもうすっぺらい感じにしかならないのに、どうしてレストランなどで見るホットケーキはふっくらしているのだろう？」「自分もああいうのをつくりたいなあ！」と思ったことに、その実験をするに至った理由があったと聞き、「そういう気持ちでやってみたのね……。」と深く納得がいきました。そこには、「思い」があったのです。そして、こうした日常の「なんでだろう？」を見つけることができるやわらかい感性に、子どもの力を感じずにはいられませんでした。

きれいだなあ！面白そうだな！楽しそうだな！

自分もやってみたいな！やってみよう！

不思議だな？なんでだろう？

等々、こうした心の動き、感動とか好奇心といった子どもの感性が働く場、その素が生まれる場は、日常生活の中、学校生活の中にもいっぱいあるのだと思います。そして、子どもは誰もが、感じる力、表現する力を様々に、多種多様にいっぱいもっていますし、それが即ち「学びの力」の素だと思っています。

以前、同じ職場にいた家庭科の先生が「不思議なことに、子どもがつくったポテトサラダは、大人のつくったものよりも、ずっと美味しいのよ。」とおっしゃったこと、なんだかわかる気がします。きっと、子どもは全力で、感性を働かせて対象に関わるから美味しい。実りの秋。子どもの内なる感性を、豊かに温かく磨いていく教育活動や子どもとの関わりを充実させたいです。